

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月14日

【四半期会計期間】 第108期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 南総通運株式会社

【英訳名】 NANSO Transport Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中村隆則

【本店の所在の場所】 千葉県東金市東金582番地

【電話番号】 (0475) 54 - 3581 代表

【事務連絡者氏名】 取締役副社長管理本部長 今井利彦

【最寄りの連絡場所】 千葉県東金市東金582番地

【電話番号】 (0475) 54 - 3581 代表

【事務連絡者氏名】 取締役副社長管理本部長 今井利彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第107期 第2四半期 連結累計期間	第108期 第2四半期 連結累計期間	第107期
会計期間		自 平成27年 4月1日 至 平成27年 9月30日	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 9月30日	自 平成27年 4月1日 至 平成28年 3月31日
営業収入	(千円)	6,156,286	6,318,233	12,057,578
経常利益	(千円)	627,995	752,255	1,203,676
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	380,810	506,212	759,503
四半期包括利益又は包 括利益	(千円)	332,029	511,941	702,095
純資産額	(千円)	14,739,970	15,542,296	15,110,036
総資産額	(千円)	26,022,117	26,157,393	25,839,222
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	76.46	101.65	152.51
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	56.6	59.4	58.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	488,513	812,554	1,245,869
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	501,587	204,699	1,020,809
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	48,514	469,449	477,435
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,097,247	1,947,838	1,809,431

回次		第107期 第2四半期 連結会計期間	第108期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年 7月1日 至 平成27年 9月30日	自 平成28年 7月1日 至 平成28年 9月30日
1株当たり四半期 純利益	(円)	27.70	47.75

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 営業収入には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や個人消費の回復に弱さがみられるものの、雇用環境の改善などから、景気は緩やかな回復基調となりました。しかしながら、中国をはじめとする新興国経済の減速懸念や英国のEU離脱問題等による金融市場の変動等により、先行きには不透明感が強まっております。

物流業界におきましては、企業収益の下振れや在庫調整にともなう生産の落ち込み等から輸送量の減少が見込まれており、原油価格の低位安定に下支えされているものの、ドライバー不足等によるコスト増もあることから、依然として厳しい環境下にあります。

このような経営環境の下で当社グループは、お客様の立場に立ったより良い物流サービスを提案、提供し、既存顧客との取引拡大と新規顧客の開拓を積極的に推進するとともに、コスト削減のため輸送の効率化と経費節減にも積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業収入は、63億1千8百万円（前年同四半期比2.6%増）となり、営業利益は7億6千7百万円（前年同四半期比18.5%増）、経常利益は7億5千2百万円（前年同四半期比19.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億6百万円（前年同四半期比32.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

貨物自動車運送事業

貨物自動車運送事業については、輸送業務の取り扱いが堅調に推移したことにより、営業収入は2,356百万円、前年同四半期比149百万円、6.8%の増収となり、セグメント利益（営業利益）は200百万円、前年同四半期比111百万円、124.9%の増益となりました。

倉庫事業

倉庫事業については、一部倉庫稼働率が向上したことなどから、営業収入は1,419百万円、前年同四半期比124百万円、9.6%の増収となり、セグメント利益（営業利益）は412百万円、前年同四半期比81百万円、24.7%の増益となりました。

附帯事業

附帯事業については、一部自動車整備関連の落ち込みなどから、営業収入は1,885百万円、前年同四半期比90百万円、4.6%の減収となり、セグメント利益（営業利益）は104百万円、前年同四半期比66百万円、38.6%の減益となりました。

不動産事業

不動産事業については、一部賃貸物件の稼働率の低下により、営業収入は462百万円、前年同四半期比25百万

円、5.2%の減収となり、セグメント利益（営業利益）は292百万円、前年同四半期比 11百万円、3.9%の減益となりました。

建設事業

建設事業については、完成高が減少したことなどにより、営業収入は73百万円、前年同四半期比 65百万円、47.0%の減収となり、17百万円のセグメント損失（営業損失）（前年同四半期は10百万円の営業損失）となりました。

その他

その他事業については、旅客運送事業、保険代理店業が個人消費の落ち込みで回復の兆しが見えない中、営業収入は172百万円、前年同四半期比 10百万円、5.6%減収となりましたが、セグメント利益（営業利益）は4百万円（前年同四半期は1百万円の営業損失）となりました。

（注）上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2)財政状態の分析

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて5.9%増加し、4,569百万円となりました。これは、現金及び預金が148百万円増加したことなどが要因であります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ0.3%増加し、21,587百万円となりました。これは、新物流倉庫の建設による増加と資産減価償却による減少が主な要因であります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて318百万円増加し、26,157百万円になりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて4.6%増加し、5,134百万円となりました。これは、流動負債のその他のうち未払金が249百万円増加したことなどが要因であります。固定負債は、前連結会計年度末に比べて5.9%減少し、5,480百万円となりました。これは、主に長期借入金が351百万円減少したことが要因であります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて114百万円減少し、10,615百万円になりました。

純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2.9%増加し、15,542百万円となりました。これは、主に利益剰余金が増加したことなどによります。

(3)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末に比べ 149百万円減少し、1,947百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が751百万円となり、たな卸資産の増加等により、得られた資金は812百万円、前年同四半期比324百万円、66.3%の増加となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が減少したことなどにより、使用した資金は204百万円、前年同四半期比296百万円、59.2%の支出の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入が減少したことなどにより、使用した資金は469百万円、前年同四半期比 517百万円となりました。

(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5)研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(6)経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

今後の物流業界におきましては、ドライバー不足等による人件費の上昇に加えて、原油価格の緩やかな上昇、中国経済や新興国経済など海外景気の下振れ懸念等により、不透明な状況が続くものと思われま

す。このような状況の下、当社グループは一丸となってより良いサービスの提供と一層の営業力の強化に鋭意努力してまいり所存であります。また、燃油価格の動向が経営成績に大きな影響を与えると認識しており、引き続き注視をしております。さらに、エコドライブ・アイドリングストップの徹底等の省エネルギー対策をさらに推進し、コスト抑制を実施してまいります。

平成28年度は、お客様との信頼関係を構築し、より高品質なサービスの提供と新たな改善提案能力を積極的に発揮するため、「威風堂々と、日々、目標達成に立ち向かう集団と成れ」を全社経営行動指針とし、「営業拡大」、「現場力の強化」、「人材育成」、「安全衛生の推進強化」を基本方針として掲げ、実行してまいります。

(7)経営者の問題認識と今後の方針について

物流業界におきましては、企業収益の下振れや在庫調整にともなう生産の落ち込み等から輸送量の減少が見込まれており、原油価格の低位安定に下支えされているものの、ドライバー不足等によるコスト増もあることから、依然として厳しい環境下にあります。

当社グループは、徹底した経営の効率化を図りながらお客様のニーズに応えるべくより良い物流サービスを提案、提供し、既存顧客との密なる情報の提供を積極的に行い、取引拡大と新規顧客の開拓を推進すると同時に、コスト抑制のため輸送の効率化と経費削減を図るよう努力してまいります。さらに、環境問題を始めとする様々な社会問題に取り組む総合物流企業として、安定収益を確保できる企業体質を構築するために、次の課題に取り組んでまいります。

営業拡大

- ・事業収入の拡大を図ってまいります。
- ・営業体制の強化を推進してまいります。
- ・グループ各社とのシナジー効果を発揮させてまいります。
- ・資産の有効活用と稼働率を向上させてまいります。

現場力の強化

- ・問題解決能力・業務改善能力・業務実行能力の醸成を図ってまいります。
- ・高品質なサービスの提供を向上させてまいります。
- ・ローコスト体質の構築を推進してまいります。
- ・コンプライアンスを強化してまいります。
- ・環境保全の取り組みを推進してまいります。

人材育成

- ・自ら主体的に考え、行動する自立型社員・利益に直結した行動ができる社員を育成するためのOJT・OFFJT教育を強化してまいります。
- ・ドライバーとフォークリフトオペレーターの品質教育と安全教育の強化を図ってまいります。
- ・女性社員の能力開発と職務の拡大を推進してまいります。

安全衛生の推進強化

- ・自動車事故・荷物事故・労災事故の撲滅に向けた月別施策の展開を推進してまいります。
- ・生活習慣病の予防に向けた健康生活習慣の啓蒙を推進してまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,000,000	5,000,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株で あります。
計	5,000,000	5,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		5,000,000		538,500		497,585

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
総和商事株式会社	千葉県東金市田間2260	244,000	4.88
土 屋 任	千葉県東金市	234,115	4.68
南総通運従業員持株会	千葉県東金市東金582	224,509	4.49
横 山 馨	千葉県長生郡一宮町	208,224	4.16
今 井 利 彦	千葉県東金市	188,750	3.77
今 井 八重子	東京都品川区	168,950	3.37
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港 1 - 2	150,000	3.00
損害保険ジャパン 日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26 - 1	150,000	3.00
宮 田 修	千葉県茂原市	149,335	2.98
中 村 隆 則	千葉県いすみ市	132,875	2.65
計		1,850,758	37.01

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,952,000	4,952	
単元未満株式	普通株式 29,000		
発行済株式総数	5,000,000		
総株主の議決権		4,952	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式887株が含まれております。
2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権4個)含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 南総通運株式会社	千葉県東金市東金582番地	19,000		19,000	0.38
計		19,000		19,000	0.38

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,541,231	2,689,838
受取手形及び営業未収金	1,565,240	1,566,098
その他	211,286	314,708
貸倒引当金	751	825
流動資産合計	4,317,007	4,569,820
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,506,129	6,271,972
土地	13,748,565	13,755,235
その他(純額)	443,981	697,252
有形固定資産合計	20,698,676	20,724,460
無形固定資産	56,925	87,628
投資その他の資産		
投資有価証券	306,874	318,113
繰延税金資産	278,435	281,359
その他	202,064	197,458
貸倒引当金	20,762	21,447
投資その他の資産合計	766,612	775,483
固定資産合計	21,522,215	21,587,572
資産合計	25,839,222	26,157,393
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	497,267	496,767
短期借入金	2,183,130	2,206,700
1年内返済予定の長期借入金	853,358	791,891
未払法人税等	276,200	281,606
賞与引当金	202,592	213,559
その他	894,802	1,143,911
流動負債合計	4,907,352	5,134,435
固定負債		
長期借入金	4,555,874	4,204,004
役員退職慰労引当金	262,461	272,923
退職給付に係る負債	279,307	300,472
その他	724,191	703,261
固定負債合計	5,821,833	5,480,661
負債合計	10,729,185	10,615,097

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	538,500	538,500
資本剰余金	497,585	497,585
利益剰余金	13,983,235	14,409,766
自己株式	14,248	14,248
株主資本合計	15,005,072	15,431,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,857	110,586
その他の包括利益累計額合計	104,857	110,586
非支配株主持分	106	106
純資産合計	15,110,036	15,542,296
負債純資産合計	25,839,222	26,157,393

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業収入	6,156,286	6,318,233
営業支出	5,197,132	5,245,117
営業総利益	959,153	1,073,116
一般管理費		
役員報酬及び給料手当	156,488	158,958
賞与引当金繰入額	11,541	10,891
役員退職慰労引当金繰入額	14,362	12,062
その他	129,193	123,662
一般管理費合計	311,586	305,575
営業利益	647,567	767,540
営業外収益		
受取利息	474	224
受取配当金	2,984	3,243
保険配当金	2,877	3,464
助成金収入	385	721
車輛売却益	3,495	1,249
その他	3,651	5,031
営業外収益合計	13,869	13,934
営業外費用		
支払利息	33,441	28,529
その他	-	690
営業外費用合計	33,441	29,219
経常利益	627,995	752,255
特別損失		
固定資産除売却損	-	479
減損損失	57,383	-
特別損失合計	57,383	479
税金等調整前四半期純利益	570,612	751,776
法人税、住民税及び事業税	213,408	251,780
法人税等調整額	23,604	6,216
法人税等合計	189,803	245,563
四半期純利益	380,808	506,212
非支配株主に帰属する四半期純損失()	1	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	380,810	506,212

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	380,808	506,212
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,779	5,728
その他の包括利益合計	48,779	5,728
四半期包括利益	332,029	511,941
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	332,031	511,941
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	570,612	751,776
減価償却費	387,405	347,532
減損損失	57,383	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	25,500	10,462
賞与引当金の増減額(は減少)	7,148	10,967
貸倒引当金の増減額(は減少)	697	759
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21,291	21,165
受取利息及び受取配当金	6,337	6,931
支払利息	33,441	28,529
有形固定資産除売却損益(は益)	3,495	770
営業債権の増減額(は増加)	74,311	854
たな卸資産の増減額(は増加)	3,019	108,212
営業債務の増減額(は減少)	60,342	500
未払消費税等の増減額(は減少)	187,188	14,711
預り保証金の増減額(は減少)	12,345	12,902
その他	30,302	20,077
小計	740,384	1,075,810
利息及び配当金の受取額	6,345	6,958
利息の支払額	33,850	28,268
法人税等の支払額	224,365	241,945
営業活動によるキャッシュ・フロー	488,513	812,554
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	645,000	633,000
定期預金の払戻による収入	624,000	622,800
投資有価証券の取得による支出	1,029	1,150
有形固定資産の取得による支出	480,719	194,306
保険積立金の積立による支出	86	-
その他の収入	3,929	1,250
その他の支出	2,681	292
投資活動によるキャッシュ・フロー	501,587	204,699
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	97,700	23,570
長期借入れによる収入	400,000	-
長期借入金の返済による支出	373,775	413,337
自己株式の取得による支出	696	-
配当金の支払額	74,713	79,681
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,514	469,449
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	35,440	138,406
現金及び現金同等物の期首残高	2,061,806	1,809,431
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,097,247	1 1,947,838

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間から適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

全国地区通運事業協同組合の株式会社商工組合中央金庫からの借入債務に対して、保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
全国地区通運事業協同組合	148,141千円	121,199千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金	2,850,047千円	2,689,838千円
預入期間が3か月を超える定期預金	752,800	742,000
現金及び現金同等物	2,097,247	1,947,838

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	74,713	15	平成27年3月31日	平成27年6月29日

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	79,681	16	平成28年3月31日	平成28年6月30日

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収入及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	貨物自動車 運送事業	倉庫事業	附帯事業	不動産事業	建設事業	計		
営業収入								
外部顧客への営業収入	2,205,836	1,294,755	1,969,455	484,473	21,612	5,976,133	180,153	6,156,286
セグメント間の内部営業収入又は振替高	759		6,101	3,156	117,904	127,921	2,322	130,244
計	2,206,595	1,294,755	1,975,557	487,629	139,516	6,104,054	182,475	6,286,530
セグメント利益 又は損失()	89,300	330,614	170,987	303,921	10,587	884,235	650	883,585

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、保険代理店業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	884,235
「その他」の区分の損失()	650
セグメント間取引消去	4,398
全社費用(注)	240,416
四半期連結損益計算書の営業利益	647,567

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

「不動産事業」セグメントにおいて、賃貸建物等について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間においては57,383千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収入及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	貨物自動車 運送事業	倉庫事業	附帯事業	不動産事業	建設事業	計		
営業収入								
外部顧客への営業収入	2,355,670	1,419,648	1,884,643	459,888	27,891	6,147,742	170,490	6,318,233
セグメント間の内部営業収入又は振替高	797		886	2,580	46,010	50,274	1,827	52,102
計	2,356,468	1,419,648	1,885,529	462,468	73,902	6,198,017	172,318	6,370,336
セグメント利益 又は損失()	200,807	412,194	104,919	292,118	17,909	992,130	4,033	996,164

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、保険代理店業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	992,130
「その他」の区分の利益	4,033
セグメント間取引消去	13,403
全社費用(注)	242,027
四半期連結損益計算書の営業利益	767,540

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	76円46銭	101円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	380,810	506,212
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	380,810	506,212
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,980	4,980

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月10日

南総通運株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奈 尾 光 浩 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 青 柳 淳 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている南総通運株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、南総通運株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。